

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④互いの必要のために祈りましょう。

ディーヴォ ガイド



2025.9.22-28

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

8:31 では、これらのことについて、どのように言えるでしょうか。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。

8:32 私たちすべてのために、ご自分の御子さえも惜しむことなく死に渡された神が、どうして、御子とともにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがあるのでしょうか。

8:33 だれが、神に選ばれた者たちを訴えるのですか。神が義と認めてくださるのです。

8:34 だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていただくのです。

8:35 だれが、私たちをキリストの愛から引き離すのですか。苦難ですか、苦悩ですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。

8:36 こう書かれています。「あなたのために、私たちは休みなく殺され、屠られる羊と見なされています。」

8:37 しかし、これらすべてにおいても、私たちが愛してくださった方によって、私たちは圧倒的な勝利者です。

8:38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも、今あるものも、後に来るものも、力あるものも、

8:39 高いところにあるものも、深いところにあるものも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

失敗や傷を持ち出して、私たちの心を不安定にさせて、救われていないかのように思わせてくるのです。しかし、「死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのためにとりなしてくださるのです。」から、私たちは救いを疑うことはできません。

私たちは「圧倒的な勝利者である」と確信して良いのですし、また「どんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」と、安心していれば良いのです。そのような自己像をしっかりと持ちましょう。今日もそのことを感謝しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



23日 火曜

ローマ



9:1 私はキリストにあって真実を語り、偽りを言いません。私の良心も、聖霊によって私に対し証ししていますが、

9:2 私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります。

9:3 私は、自分の兄弟たち、肉による自分の同胞のためなら、私自身がキリストから引き離されて、のろわれた者となってもよいとさえ思っています。

9:4 彼らはイスラエル人です。子とされることも、栄光も、契約も、律法の授与も、礼拝も、約束も彼らのものです。

9:5 父祖たちも彼らのものです。キリストも、肉によれば彼らから出ました。キリストは万物の上にあり、とこしえにほむべき神です。アーメン。

9:6 しかし、神のことは無効になったわけではありません。イスラエルから出た者がみな、イスラエルではないからです。

9:7 アブラハムの子どもたちがみな、アブラハムの子孫だということではありません。むしろ、「イサクにあって、あなたの子孫が起こされる」からです。

9:8 すなわち、肉の子どもがそのまま神の子どもなのではなく、むしろ、約束の子どもが子孫と認められるのです。

9:9 約束のみことばはこうです。「わたしは来年の今ごろ来ます。そのとき、サラには男の子が生まれています。」

9:10 それだけではありません。一人の人、すなわち私たちの父イサクによって身ごもったリベカの場合もそうです。

9:11 その子どもたちがまだ生まれもせず、善

も悪も行わないうちに、選びによる神のご計画が、

9:12 行いによるのではなく、召してくださる方によって進められるために、「兄が弟に仕える」と彼女に告げられました。

9:13 「わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ」と書かれているとおりです。

十字架の救いは全人類のためです。そのために律法は無効でしたが、罪の自覚とさばきを与えるものでした。その律法は歴史的にはイスラエル人に与えられたもので、イスラエルは律法を守りきれずに神様から罰を受けたのです。そこで一つの考えが浮かびます。イスラエルはただ失敗して裁かれるために、神様から選ばれたのかという考えです。

それに対してパウロは「私の心には絶えず痛みがあります。」また、「彼らはイスラエル人です。子とされることも、栄光も、契約も、律法の授与も、礼拝も、約束も彼らのものです。父祖たちも彼らのものです。またキリストも、肉によれば彼らから出ました。」と言っています。自分の民であるイスラエルを愛しているのです。

パウロはイスラエルのために愛して、心を砕いて祈ったはずですが、そこで先ずイスラエルが神に選ばれた民であり、イサクやヤコブのように神に選ばれたのだと明言します。

後に彼はイスラエルの救いについて、その希望を明かにしますが、このような同胞への愛があったからです。救いのために必要なのは愛です。「のろわれた者となってもよい」ほどの愛を持って、救いを祈るなら必ず道が開かれると知りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



24日 水曜

ローマ



9:14 それでは、どのように言うべきでしょうか。神に不正があるのでしょうか。決してそんなことはありません。

9:15 神はモーセに言われました。「わたしはあわれもうと思う者をあわれみ、いつくしもうと思う者をいつくしむ。」

9:16 ですから、これは人の願いや努力によるのではなく、あわれんでくださる神によるのです。

9:17 聖書はファラオにこう言っています。「このことのために、わたしはあなたを立てておいた。わたしの力をあなたに示すため、そうして、わたしの名を全地に知らしめるためである。」

9:18 ですから、神は人をみこころのままにあわれみ、またみこころのままに頑なにされるのです。

9:19 すると、あなたは私にこう言うでしょう。「それではなぜ、神はなおも人を責められるのですか。だれが神の意図に逆らえるのですか。」

9:20 人よ。神に言い返すあなたは、いったい何者ですか。造られた者が造った者に「どうして私をこのように造ったのか」と言えるでしょうか。

9:21 陶器師は同じ土のかたまりから、あるものは尊いことに用いる器に、別のものは普通の器に作る権利を持っていないのでしょうか。

9:22 それでいて、もし神が、御怒りを示してご自分の力を知らせようと望んでおられたのに、滅ぼされるはずの怒りの器を、豊かな寛容をもって耐え忍ばれたとすれば、どうですか。

9:23 しかもそれが、栄光のためにあらかじめ備えられたあわれみの器に対して、ご自分の豊かな栄光を知らせるためであったとすれば、どうですか。

9:24 このあわれみの器として、神は私たちを、ユダヤ人の中からだけでなく、異邦人の中からも召してくださったのです。

イスラエルを特別に選んだという神の行為は不公平ではないのか…という疑問にパウロが答えています。不公平つまり不正というのは、人間中心の考えであって、その決定権は創造主である神にあるのだとパウロは言います。

それは「度々陶器を作る者は「尊い」ものも「普通」のものも作る権利があるのであって、作る者の自由ではないか」というのです。至極当たり前のことです。

しかしパウロの話はそのような理屈の勝利では終わりません。神は「その理屈を越える神の恵みがあるのです。滅ぼされるべき怒りの器を、豊かな寛容をもって忍耐してくださった」のだというのです。つまり、怒りの対象であった「普通」のものであったはずの異邦人が、救われたということです。

それは「ユダヤ人の中からだけでなく、異邦人の中からも」というように、全人類から救われたのです。決してイスラエルの選びは不公平や不正ではなく、神の「豊かな寛容」は全人類に及んでいるのです。

このような大いなる救いの御計画を覚えつつ、自分の救われたことの驚きを感じましょう。またこの大きな力に依り頼んで、身近な人の救いのために努力しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



25日 木曜

ローマ



9:25 それは、ホセアの書でも神が言っておられるとおりです。「わたしは、わたしの民でない者をわたしの民と呼び、愛されない者を愛される者と呼ぶ。

9:26 あなたがたはわたしの民ではない、と言われたその場所で、彼らは生ける神の子らと呼ばれる。」

9:27 イザヤはイスラエルについてこう叫んでいます。「たとえ、イスラエルの子らの数が海の砂のようであっても、残りの者だけが救われる。

9:28 主が、語られたことを完全に、かつ速やかに、地の上で行おうとしておられる。」

9:29 また、イザヤがあらかじめ告げたとおりです。「もしも、万軍の主が、私たちに子孫を残されなかったなら、私たちもソドムのようになり、ゴモラと同じようになっていたであろう。」

9:30 それでは、どのように言うべきでしょうか。義を追い求めなかった異邦人が義を、すなわち、信仰による義を得ました。

9:31 しかし、イスラエルは、義の律法を追い求めていたのに、その律法に到達しませんでした。

9:32 なぜでしょうか。信仰によってではなく、行いによるかのように追い求めたからです。彼らは、つまずきの石につまずいたのです。

9:33 「見よ、わたしはシオンに、つまずきの石、妨げの岩を置く。この方に信頼する者は失望させられることがない」と書いてあるとおりです。

ホセア書、イザヤ書などを見ても、神様の選びの正等性について論じられています。神様がイスラエル

を選ばれたということは支持されます。しかし「イスラエルは、義の律法を追い求めながら、その律法に到達しません」でした。「信仰によって追い求めることをしないで、行ないによるかのように追い求めたから」です。

ホセア書、イザヤ書などを見ても、神様の選びの正等性について論じられています。神様がイスラエルを選ばれたということは支持されます。しかし「イスラエルは、義の律法を追い求めながら、その律法に到達しません」でした。「信仰によって追い求めることをしないで、行ないによるかのように追い求めたから」です。

ただしそれは神様にとっては想定内のことでした。「わたしは、シオンに、つまずきの石、妨げの岩を置く。」とあるとおりです。一方、その神様がまた「彼に信頼する者は、失望させられることがない。」とも言っておられます。

すべてのことは神様が御存知です。そしてまた神様が希望となつてくださるのです。このつまずきの石とはイエス様のことです。そして彼こそが希望でもあるのです。

十字架で死なれたというような、一見弱いイエス様につまずく人は多いでしょう。しかしまたこのイエス様こそが、それらの人々をも救ってくださるのですから、大胆にイエス様を宣べ伝えましょう。イエス様に頼りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



26日 金曜

ローマ



10:1 兄弟たちよ。私の心の願い、彼らのために神にささげる祈りは、彼らの救いです。
10:2 私は、彼らが神に対して熱心であることを証しますが、その熱心は知識に基づくものではありません。

10:3 彼らは神の義を知らずに、自らの義を立てようとして、神の義に従わなかったのです。
10:4 律法が目指すものはキリストです。それで、義は信じる者すべてに与えられるのです。
10:5 モーセは、律法による義について、「律法の掟を行う人は、その掟によって生きる」と書いています。

10:6 しかし、信仰による義はこう言います。「あなたは心の中で、『だれが天に上るか』と言ってはならない。」それはキリストを引き降ろすことです。

10:7 また、「『だれが深みに下るのか』と言ってはならない。」それはキリストを死者の中から引き上げることです。

10:8 では、何と言っていますか。「みことばは、あなたの近くにあり、あなたの口にあり、あなたの心にある。」これは、私たちが宣べ伝えている信仰のことばのことです。

10:9 なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。

10:10 人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。

10:11 聖書はこう言っています。「この方に信頼する者は、だれも失望させられることがない。」

10:12 ユダヤ人とギリシア人の区別がありま

せん。同じ主がすべての人の主であり、ご自分を呼び求めるすべての人に豊かに恵みをお与えになるからです。

10:13 「主の御名を呼び求める者はみな救われる」のです。

パウロは同胞イスラエルを愛していたので、彼らが救われることを願っていました。しかし彼らは熱心でありながら、本当の救いと信仰義認の知識に基づいていなかったのです。

「義は信じる者すべてに与えられる」のですから、救いは信仰によります。しかし律法による救いは人間の力で救うことなので、人間の力を神の力と同等にできていません。ですからそれは人間が「キリストを引き降ろす」ことになるわけです。また死なれたイエスを復活させる力が、人間にもしもあるなら、「キリストを引き上げる」ようなこともできるでしょう。もちろんそれはできないことです。

救いは信仰によるのです。それによって「ユダヤ人とギリシア人の区別はありません。」というように、全人類に公平な救いが実現するのです。

自分の救いが一方的な恵であったことを、新たな思いで感謝しましょう。また人の救いのために、もっと祈って主のみわざを求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10:14 しかし、信じたことのない方を、どのようにして呼び求めるのでしょうか。聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか。

10:15 遣わされることがなければ、どのようにして宣べ伝えるのでしょうか。「なんと美しいことか、良い知らせを伝える人たちの足は」と書いてあるようにです。

10:16 しかし、すべての人が福音に従ったのではありません。「主よ。私たちが聞いたことを、だれが信じたか」とイザヤは言っています。

10:17 ですから、信仰は聞くことから始まります。聞くことは、キリストについてのことばを通して実現するのです。

10:18 では、私は尋ねます。彼らは聞かなかったのでしょうか。いいえ、むしろ、「その響きは全地に、そのことばは、世界の果てまで届いた」のです。

10:19 では、私は尋ねます。イスラエルは知らなかったのでしょうか。まず、モーセがこう言っています。「わたしは、民でない者たちであなたがたのねたみを引き起こし、愚かな国民であなたがたの怒りを燃えさせる。」

10:20 また、イザヤは大胆にもこう言っています。「わたしを探さなかった者たちにわたしは見出され、わたしを尋ねなかった者たちに自分を現した。」

10:21 そして、イスラエルのことをこう言っています。「わたしは終日、手を差し伸べた。不従順で反抗する民に対して。」

必要条件”に言及します。すなわち「宣べ伝え」られるということで、それはつまり誰かが伝道しなくては、人は救われないということです。

救いのために祈っている人がいるのでしょうか。私たちはそのために何を行動しているのでしょうか。近いうちに誰かが、その人に宣べ伝えるように、祈りましょう。そのために行動しましょう。おそらく、その誰かは自分であるのだと示されるでしょう。

次にイスラエルについてパウロは問題を提起します。「彼らは聞かなかったのでしょうか。」という問いかけに対して「いいえ」と否定しています。

歴史に存在するイスラエルに神様は御自身を表し、律法を与えました。ですからイスラエルの存在は、神が現実の歴史に介入なさるという証拠でもあります。そしてイスラエルの救いもまた神様が歴史に介入して救われるという証しでもあります。

それゆえ神様はイスラエルを現実的に愛しておられるのです。神様が御自身を表す民として選ばれ、そこから苦難の歴史の中で彼らが生きてきたからでもあるでしょう。

それは私たちの個人の人生も同じです。主の証のために苦難にある人は、神様がイスラエルを愛しておられると同じように愛されていることを確信しましょう。またその証しであるイスラエル民族を愛してとりなしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11:1 それでは尋ねますが、神はご自分の民を退けられたのでしょうか。決してそんなことはありません。この私もイスラエル人で、アブラハムの子孫、ベニヤミン族の出身です。
11:2 神は、前から知っていたご自分の民を退けられたのではありません。それとも、聖書がエリヤの箇所で言っていることを、あなたがたは知らないのですか。エリヤはイスラエルを神に訴えています。

11:3 「主よ。彼らはあなたの預言者たちを殺し、あなたの祭壇を壊しました。ただ私だけが残りましたが、彼らは私のいのちを狙っています。」

11:4 しかし、神が彼に告げられたことは何だったのでしょうか。「わたしは、わたし自身のために、男子七千人を残している。これらの者は、バアルに膝をかがめなかった者たちである。」

11:5 ですすから、同じように今この時にも、恵みの選びによって残された者たちがいます。

11:6 恵みによるのであれば、もはや行いによるものではありません。そうでなければ、恵みが恵みでなくなります。

11:7 では、どうなのでしょう。イスラエルは追い求めていたものを手に入れず、選ばれた者たちが手に入れました。ほかの者たちは頑なにされたのです。

11:8 「神は今日に至るまで、彼らに鈍い心と見ない目と聞かない耳を与えられた」と書いてあるとおりです。

11:9 ダビデもこう言っています。「彼らの食卓が、彼らにとって罌となり、落とし穴となり、つまずきとなり、報いとなりますように。

11:10 彼らの目が暗くなり、見えなくなりますように。その腰をいつも曲げておいてください。」

11:11 それでは尋ねますが、彼らがつまずいたのは倒れるためでしょうか。決してそんなことはありません。かえって、彼らの背きによって、救いが異邦人に及び、イスラエルにねたみを起こさせました。

11:12 彼らの背きが世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らがみな救われることは、どんなにすばらしいものをもたらすことでしょう。

イスラエル人の多くは信仰による救いを受け入れませんでした。イエス様を十字架に付け、キリスト者たちを迫害しました。パウロは「神はご自分の民（イスラエル）を退けてしまわれたのですか。」と問いかけますが、その結論は「絶対にそんなことはありません。」ということです。

イスラエル全部が主イエスへの信仰による救いを拒絶したかという、そうではなく「今も、恵の喜びによって残された者が」いるということです。イスラエルには救いの希望があるのです。今は救いが異邦人に及んでいますが、それは「イスラエルにねたみを起こさせるため」だということです。律法による救いを頑なに固辞し、選民意識で他国を圧倒しようとするイスラエル民族も、救われている異邦人を見て、羨ましさやさらにはねたみまで感じて、心が変えられていくということです。

確かに現在のイスラエル宣教はそのような方法によるようです。救いの教理や説得によるのではなく、異邦人の信仰と愛を見せることによって、宣教がある程度まで進んでいます。

それは日本人に対しても同じです。異教の風習に染まった地域を、説得ではなく信仰の愛を見せることで、宣教が進むのです。心が開かれていな

い人や社会では、それが主の御心と言えるでしょう。私たちもそれを実践しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

